

# 定温運搬装置を導入

## 卸



サルムFZ 低温での保管が可能  
(東邦HD提供)

医薬品の流通において、高精度な品質管理の取り組みが進む。2018年に厚生労働省は「医薬品の適正流通（GDP）ガイドライン」を整備し、流通過程の医薬品の品質保証が高い水準で求められるようになった。こうした中、東邦ホ

ールディングス（HD）は医薬品の出荷時から使用現場まで品質を管理する定温運搬装置「サルム」を展開。品質を厳密に管理し、医薬品の流通最適化に貢献する。

近年、医療の発達に伴い、希少

疾患の治療薬や再生医療、また高額な医薬品など、厳密な管理や記録が求められる「スペシャリティ医薬品」が増加する。こうした医薬品の取り扱いに対応するため、東邦HDは流通から使用時まで医薬品の品質を担保できる機能を持つ「サルムTS」と「サルムFZ」の運用を始めた。サルムTSは庫内温度4〜37度C、サルムFZは同25〜4度Cで温度を一定に保つことができる。温度の管理と記録に加え、装置の開閉時刻も記録されなど、サルム内に医薬品が保管されている間の品質を保証する。

スペシャリティ医薬品はほかの多くの医薬品と異なり、国内の在庫数が

少ない。通常、使用する医療機関が購入して使用時まで保管する。しかし、納品後に使われなくなった場合、GDPガイドラインでは全期間において適切な保管条件にあったことが保証できない場合は返品することができず、廃棄となっていた。サルムは一定の温度で医薬品を保管し、記録することができる。そのため、使用する直前までスペシャリティ医薬品を入れておくことで医薬品の品質を維持し保証することが可能だ。スペシャリティ医薬品はサルムごと医療機関に置いておき、保管条件の記録を継続する。こうしたことで、納品後に使われなくなった

場合でも品質保証ができ、医薬品の返品が可能になる。

## スペシャリティ医薬品に展開

東邦薬品物流本部の川井弘一室長は「スペシャリティ医薬品は海外メーカーが必要な量だけ製造しているケースもあり、必要になってみずぐに取り寄せられないこともある。サルムを使うことで返品が可能になると、ほかの医療機関へ供給するなど、廃棄による損失がなくなる」と説明する。患者の治療に欠かせないスペシャリティ医薬品を国内で効率的に使える体制が整うことで、医療機関が購入の計画を立てやすくなるメリットもある。

製薬企業は再生医療や遺伝子治療など、新たなモダリティ（治療手段）での医薬品開発に力を入れる。対象患者は少ないものの、スペシャリティ医薬品の種類は増える見込みで、こうした医薬品を適正に流通して無駄を減らし、必要な医療機関に供給するために、サルムの需要が増える。そうだ。